

## 未来から考える沖縄

沖縄県立開邦高等学校 3年 内間 ゆき

沖縄の観光を未来につなげる時、まず私達は未来を知らなければいけない。これから述べるのは沖縄の明日の未来と100年後の未来についてだ。

高校二年の時、関西出身の友人と南フランスにあるマルセイユを訪れた。フランスは世界一の観光大国であり、特に最大の港町と言われるマルセイユは、キレイな海とゆっくりと流れる時間が人気を呼び、マルセイユ区域だけでも毎年およそ8400万人もの観光客が訪れる。沖縄全体で迎える観光客数の約10倍であり、その差は歴然としている。確かにマルセイユの海はとても青く、美しく輝いていた。一緒にいた関西の友人はみなその海の美しさに激しく感動していた。しかし、私からすると沖縄の海の方がより美しかった。輝く青さは同じものだが、より透き通っていて、穏やかだったのは沖縄の海だ。その上、わが島には南国を思わせる青々とした植物が生い茂り爽やかだ。私は感動する友人の横で「沖縄の海は世界に全く劣らない」という事を確信した。私が世界レベルの視点で戦う沖縄の観光について真剣に考えるきっかけとなったのはこの瞬間だった。

さて、私は一つの疑問を抱いた。なぜ沖縄にはマルセイユにさえ負けない美しい海があるにも関わらず、観光客の獲得数にここまで差があるのかという事だ。私はこの問題に二つの原因があると考えた。

まず一つ目に、世界の人に目を向けてもらう機会の数だ。マルセイユやその周辺では、世界ボートレースの開催地として使われている他、国際映画祭が催され、ハリウッドで活躍する人々が集まるイベントなど、世界中が注目する機会が多い。結果、メディアが頻繁に取り上げるようになる為、私達は自然とその地域の事を知るようになり、旅行先として候補に挙げやすくなるのだ。沖縄にも世界のウチナーンチュ大会や世界を回る豪華客船の港がすでに存在する。それ以外にもより開放的で長期滞在のきっかけとなるイベントを増やす事が必要と考える。

そして二つ目に、観光客のマナーである。私達受け入れる側は「おもてなし」をする事に目が行きがちだが、より多くの観光客に快適に沖縄を楽しんでもらう為には観光客を選ぶ事も大事になってくるだろう。マルセイユの場合多くのブランド店が並び、ボート所有者に港や別荘を貸出している。こうやって富裕層にターゲットを絞っているように思えた。結果、ビーチでもレストランでもどこでもマナーが守られていて、管理が行き届いた快適な空間となっていた。同じ視点から考えると、沖縄を丁寧に楽しんでもらう為には、誰でも分かるような標識で忠告を施し、日本の文化や感覚を理解してもらう。そうしてマナーを守る事を意識してもらうのだ。それだけでもお互いが心地良く効率的に観光地を繁栄させる事が出来ると私は考える。那覇市の久米に福州園という庭園がある。中国福州地方の伝統的手法を用いた中国式庭園であり、沖縄と中国福州地方の友好を記念して作られた。タイムス新聞記事

によると、この福州園は建設25年を迎えた今、急激に全国から注目を浴び初めているらしい。その理由となったのが、写真だ。沖縄のコスプレイヤーがこの庭園を背景に中国をイメージして撮った写真をSNSに投稿したのが始まりだった。そこから沖縄県はSNSに目を付け、外国からより多くのコスプレイヤーに訪れてもらえるように政策を進めているそう。このように、ふとしたきっかけから知名度が上がり注目されることがある。このチャンスを逃さないためにも、今あるものだけにこだわるのではなく、新しい沖縄を作り出し、自信をもって進化させていかなければならないだろう。

ここまで述べたものは明日の未来を期待した沖縄の観光だ。ここからは、「未来」をより遠いものとして考えてみる。50年先または100年先の沖縄を考えたらどうだろう。100年後埋め立てに歯止めがきかなくなり、サンゴは死滅しかけ汚い海になってしまうのか。さらに、地球温暖化は進行して日本全体が南国のような気候になる事も十分に考えられる。こうして魅力を失ってしまった沖縄は、世界からの観光客は愚か、日本国内からの観光客の数まで大幅に減るだろう。つまり、私たちが今から考えなくてはいけないのは、「次世代に残る持続的な観光」だ。本土の老舗を例に挙げる。例えば、林業やウイスキーは先祖の代から作って育ててきてくれた物を商品として売り、今作るもの全ては次世代の為に残す。このようにして私達も百年先の未来に魅力的な沖縄をつなぐ歴史を今から作り残していく必要がある。

終わりに私達県民が様々な未来から沖縄を見つめ発展させる事。それが世界の沖縄という未来へと導くだろう。